

第十二号
「変える」

メルマガ noichi 第十二号。今回のテーマは『変える』。
明治の文明開化、大正の大震災、昭和の世界大戦、平成のIT革命。
それは、変わってきたのか、変えてきたのか。
いずれにせよ、いつの時代にも『チェンジ』があった。
編集長雅楽之一が、大改革のキーマンと位置づける実業家 Mr. Sometimes、
今をときめく子役スター・鈴木福くんのおばあちゃん川村利美氏をお迎えし、
やる気十分の面々で、お届けします。

今回も、邦楽界の現状について考察してみます。

ここ数年、それは右肩下がりの日本経済と運命を共にする
ように、邦楽界の低迷が囁かれて久しく、最近では邦楽に關
するポジティブな意見を聞くことが本当になくなってきて、
業界もいよいよ重たい腰を上げ、論議の対象は邦楽界の体質
改善、意識改革の是非にはじまり、免状制度の見直し、演奏
会のプロデュース方法、教育、人材発掘…などなど、私にと
ってはどれも耳の痛い話でもあります。様々な意見に相違
はあれど、少なくとも今の邦楽界が、もう現状のまま突き進
むことが許されない事態を迎えていることに、否定の余地は
ありません。

『変える』ことの難しさを露呈しているのは、昨今の日本
政治。これには「もううんざり」ですが、それは「チェンジ」
を唱えて当選したオバマ大統領のアメリカ合衆国もわかり、
やはり先人の格言にある通り、言うは易く行うは難しなので
す。最近の、例えばFacebookのザッカーバーグCEOの
動きに注目が集まったり、大阪維新の会代表の橋下氏が圧倒
的な支持を得ているのは、痺れを切らした日本国民の心情を
映し出しています。それが相応しいリーダーであるか否かは
別として、激動のこの時代に求められるのは、生き馬の目を
抜く洞察力、判断力と、内外部からの抵抗勢力を物ともしな
いだけの行動力なのかもしれません。

この先50年が経って、そうすると西暦も2060年頃になっ
ていますね。一体どんな時代になっているのでしょうか。き
っと、今からでは想像も出来ない別世界が広がっているので
しょう。もし、もしその時代にも生き残っている今日の何
か（企業、芸術、文化）があるとすれば、それは間違いなく、
今この時代に戦った人達であり、努力をした人達であること
に違いありません。

チェンジ

実業家 Mr. Sometimes氏

以前、アメリカの大統領選挙で チェンジという短い言葉が頻繁に使われ、オバマ大統領の「キャッチフレーズ」として軽く受け止めておりましたが、9・11のテロ以来、世界経済が激変し、ここ数年で経済観念、人間関係他、さまざまなことに相当に変化があったと思われ、色々なシテムをまさにチェンジしない限り、何事においても持続することが困難な時代になり、改めて「チェンジ」という言葉の意味の深さを痛感することとなりました。

邦楽の業界に於いても少子高齢化、と経済状況の変化により邦楽人口が激減しております。又もう一方の原因として、人がリスクの分だけリターンを求める時代になり、その点で、邦楽より魅力のあるものが多くなったことがあげられると思います。そこで、邦楽界の質を高め多くの方々に触れていただくということについて、少し考えてみたいと思います。

一つの業界の10年20年先の繁栄を考えてみました時、その業界の未来は現在のジュニアに受け入れられているか否かで繁栄か、衰退かのどちらかに決まることと思われまます。そこで、ジュニア層を強化しようと考えてるのはスポーツ界、芸術界でも同様であり、既に10年前位からジュニア向けのイベント等々でそのものにまず興味を持ってもらうところから裾野を広げ、しっかりとしたコーチや、人間的魅力のある人材を登用して、プレーヤー及びファンの拡大につなげていると思います。

邦楽の世界では場当たり的に準備も不十分なまま催事等を行っているように見える為、現状では労力の割に、あまり効果は期待出来ないと思われまます。真剣にジュニア層を獲得しようとするならば、今、20代30代の母親世代の人たちが魅力を感じるようにしなければ、そして応援してもら

わなければジュニア層は絶対に動かないし、動けないのです。

その年代を絞り込み、若いお母さん方に魅力を感じて頂くことが出来れば、邦楽人口は飛躍的に伸びると思われまます。まず、リターンという点に着目して考えることが大切と思われるので、話をちよつと作つてみたいと思います。

小学校、中学校、高校と約10年間邦楽を続けたとして、その邦楽能力を生かして大学、及び専門機関に入学が出来、そして就職が100%保障され 社会に出てから30年から40年の保障が裏付けられるとなればどうでしょう。

かなりの成果が上がるのではないのでしょうか。2時間の演奏会を聴いてももらつても1週間後には印象が薄くなると思われまます。進学、就職 説明会を40分程度聞いてもらつと、おそらく数年間は頭の中から離れないと思います。一つの角度から考えてもこういう発想もうまれると思われまます。色んな人が様々な立場、角度から考えれば、より素晴らしい考えが生まれるでしょう。

長くなりましたが、現在の家元制度、そして組織構成人間抜擢、演奏会のあり方、邦楽作品等々にも大きな「チェンジ」が求められる時代になったのではないのでしょうか。

私の普及活動

和楽器のオーケストラむつのを代表 川村利美(雅巳葵)

昭和が終る頃、私の故郷に「長野県伊那文化会館」が誕生しました。その柿落としての様々な公演の中に、長野県三曲協会六地区の中堅者による演奏会がありました。通常、県三曲では各地区当番制で、社中ごとの出演が多いのですが、社中・流派を越えて中堅者に任せるといふ画期的な企画でした。この演奏会がきっかけで、新たにメンバーを募集し、平成元年四月に流派を越え、年齢層も幅広い「邦楽



グループうづぎ」が結成されました。流派や社中を越えた仲間と試行錯誤しながらの曲作りは、楽しく、レベルアップにつながったように思いました。

一方、東京では邦楽普及の為の「むつのをコンサート」の準備が進んでいました。「むつのを」は「正派頌歌」の歌詞の一節に出てくる和琴の俗称で、正派音楽院に在籍していた頃に発行していた学生新聞のタイトルでした。六才の六月六日に芸事を始めると成就するという、言い伝えにあやかりたく、平成元年六月六日六時に「むつのをコンサート」はスタートしたのでした。私の娘が六年生の時、小学校六年間の音楽教育の中での邦楽に触れることの少なさに愕然とし、練馬区教育委員会に陳情したり、地域の催し

に参加したり色々奔走しました。身近な所で気軽に邦楽に触れるチャンスが少ない事に気づき、無料のコンサートを毎月開催すれば、年に一回でも生の和楽器の演奏を聴いて頂けるだろう、と思ったのです。呼び掛けに共感してくれた、私や夫（泰山）の弟子、友人など流派を越えた外国人も含めた十名程のメンバーでのスタートでした。その当時ゲーム音楽の「ドラゴンクエスト」が流行っていて、毎月スタジオミュージシャンのように新しい編曲に取り組み、アニメソングなど、皆が知っている曲を、箏・尺八・三味線・琵琶などの演奏で聴いてもらい、和楽器に親しんでもらいました。必ず古典も入れ、小学唱歌等と楽器伴奏に皆で歌うコーナーもありました。アンケートなどで古曲が良かったと書かれていると、本当に嬉しく、とてもやりがいがあり、励みになっていました。

冒頭の「長野県伊那文化会館」主催で「邦楽サラダ」というタイトルの邦楽コンサートが開催されました。伊那の「うつぎ」と東京の「むつのを」がドッキングして実現したコンサートです。舞台の背景や、照明などを駆使し、見て聴いて楽しめる、観客と出演者が、一体となるものでした。食わず嫌いでも、味付け次第で食べられるサラダの様に、敬遠されがちな邦楽も、工夫次第で親しんで頂けるのでは？との発想です。「邦楽サラダ」は山本邦山、横山勝也、宮本幸子等の邦楽界のスターや、今を時めく若手演奏家を特別ゲストに招き、「むつのを」のメンバーがサポートする形で十八回開催してきましたが、今はお休みしています。むつのをコンサートは、お客さんからのリクエストや、聴いてもらいたい、演奏したい曲など毎月工夫して百五十九回開催しましたが、学校教育に和楽器が導入されてより、毎月のコンサートは、地方や学校公演に切り替わって来ました。

このような経緯で、私の邦楽普及活動は今日に至ります。

それでも邦楽人口の減少、客離れが深刻を極める現状を思うと悔しいですが、時代に合った新しい普及活動の方法を考えてみたいと思っています。

東日本大震災より日本は生まれ変わり、復興・再生と、明るい未来に向かい前に進んでいる昨今だと思えます。邦楽界も、今が、新しい動きが出来る時なのかもしれません。

唯是震一ファミリーコンサート 5月30日(水)

四谷区民ホール 新宿区内藤町87 四谷区民センター 9F
開演19時(会場18時半)

『泉』
尺八：山本邦山(人間国宝)
箏：雅楽之一

『夜々の星』
三：雅楽之一
箏：中島靖子

他

チケットは一枚3000円です。
お申し込みはメルマガ編集部でも承っております。

◎演奏会報告◎

このGW、「正派関東支部定期演奏会」、「第75回三曲名流大会」の二つの演奏会に行ってきました。前者は、雅楽之一や私も所属する正派の演奏会。そのため、演奏する機会や聞く機会も多い曲が多数演奏されました。一方後者は、各会が一曲ずつ演奏。そのため、流派の違う山田流の曲や、本曲(尺八だけ)、同じ生田流でも馴染みのない曲、と様々。両会とも、美しい演奏あり、刺激になる演奏ありと邦楽を堪能できました。関係者の皆様お疲れさまでした。

noichi編集部 (http://ameblo.jp/no222m) 新見雅晃

邦楽英単語講座・その十一：譜面台

music stand



Translated by noriko morikawa
Illustration : urara okuda

◎あとがき◎

遺伝子の研究者によると、日本人は細かい事を気にする遺伝子を持つ割合が多く、冒険や挑戦を好む遺伝子をもつ人が少ないそうだ。そのせいかどうか、日本人は変えるのが苦手だと言われる。歴史的にも日本の改革は外圧によることが多い。自ら変わったことがほとんどない。島国に流れていて平和に暮らし、長いあいだ外から侵略されずに済んだから、と言い訳するのは簡単だが、そう言ってもいられない状況になってきたと思っている人も多い。

何事にもいい面と悪い面がある。そんな日本人だからこそ、秩序が保たれ、繊細で独特な文化が生まれたとも言える。変化を好まないのが悪いわけでもない。しかし変化を望まず、その場に留まっているつもりでも、世の中に変化しない物などない。みんな知らないうちに日々流されている。だから、そこにいたかったら、どこかに向かって泳いで行くしかないのだ。

グラフィックデザイナー (http://www.1938.jp) みやはらたかお